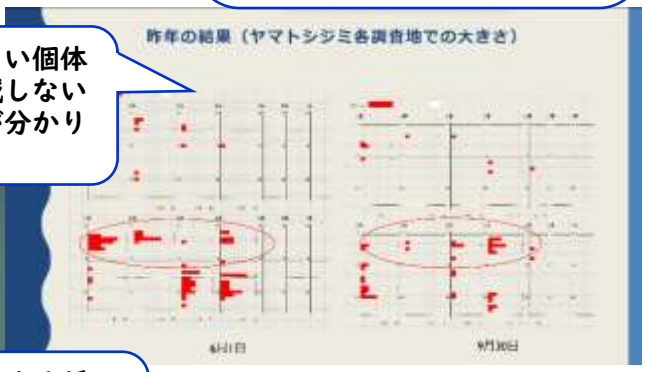
本年１月１１日（土）に島根大学で行われた汽水域合同研究発表会 2025 で大橋川の流動とホトトギスガイについての研究を発表しました。
（１月１２日付けの山陰中央新報に発表時の写真が掲載されました。）

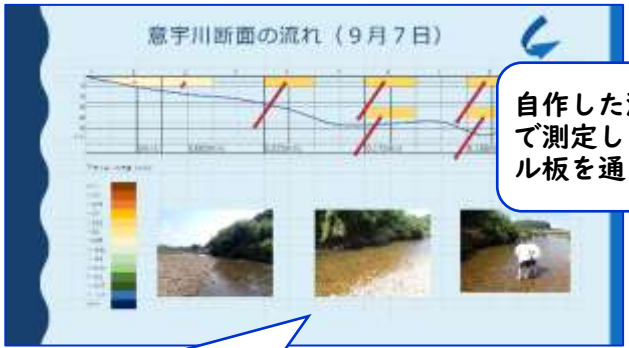
昨年から大橋川の底生生物の生育状況を調べる中で、多く見られ、分布が逆なホトトギスガイとヤマトシジミに注目しました。今回は調査継続し、特に冬から春の生育状況ついて調査しました。

エクマンバージ採泥器で採取しました。このようにホトトギスガイがマット状に分布したり、点々と隙間があったりヤマトシジミが見られる場合もあります。これをふるいでこし、選別しました。



ヤマトシジミは、小さい個体も夏にほとんどが死滅しないで生存していることが分かります。

私たちは、一昨年から大橋川の潮汐による流れを調べており、今回は、冬の状態と横断面の状況を調べました。



自作した流速計で糸をどれだけ巻き上げるかで測定します。水向計は上から透明なアクリル板を通して流れの向きが分かります。

調査Ⅲで、松江市八雲町意宇川の調査をしました。中央部の深いところで流れが速くなっています。ここは淵が形成されており渦をつくり、逆流していました。逆流は大橋川の岸辺でもみられることがあります。